



DXに繋がるIT活用事例セミナー

～ IT、そんな使い方があるんだぁ ～

開催日 6月14日 (火)

主催 一般社団法人 アドバンスト・ビジネス創造協会

■セミナー概要

DXに取り組みたいが、どう取り組めばよいか分からないという企業は多いと思います。DXの方向性は2パターンあります。ITによって業務を改善し生産性を向上させ、強みを生かし全く新しいビジネスモデルを創造する。どちらかを進めていくには、企業風土変革やDXを推進する人材の育成の課題がありますが、人材を育てるには時間がかかります。そして風土変革にはパワーが必要です。DXへの変革は待たなしの状況で、新しい視点で取り組みのヒントを得てみませんか。DXを進めた事例紹介から、参加者に解決策のヒントが得られるセミナーを企画しました。

- 日時 6月14日(火) 14:00~17:00
- 開催方法 Zoom開催
- 料金 無料セミナー
- 申込方法 以下のURLをクリックしお申込みください

基調講演 「DXをスタートさせる第一歩」

【講演概要】

DXを目指す会社や担当部門が、「DXはテクノロジーの話だと思っている」「DXは開発手法の話だと思っている」のであれば永久にDXはできません。DXは間違いなくテクノロジーの話ではありません。デジタルとあるので技術の話かと思いますが、それが大きな勘違いです。この講演では、DXの本質とはなにか？ 結局のところ何が必要なのか？ DXをスタートさせるための初めの第一歩とは何か？ についてお伝えします。

【プロフィール】

日本の大手企業、日本のベンチャー、外資系大手企業、外資系ベンチャーで仕事をし、エンジニア・営業・マーケティング・ビジネス開発に従事した。2010年の英国ウェールズ大学ビジネススクールでの修士論文にて、ITだけでは企業価値を高められないことに気づき、人材開発と組織開発に取り組む。2017年に株式会社サンクイットを設立し、企業向けの組織変革コンサルティング、経営者やリーダー向けのコーチングをしている。株式会社サンクイット 代表取締役／元英国ウェールズ大学 組織行動論、講師／中央大学 国際情報学部 人的資源管理論 講師／オープンソースソフトウェア協会 理事



講師 株式会社サンクイット 代表取締役 寺澤慎祐 氏
元英国ウェールズ大学 組織行動論、講師
中央大学 国際情報学部 講師
オープンソースソフトウェア協会 理事

インテル株式会社 DXの取組事例

インテル社は、DXに向けて世界を変革するテクノロジーを創造し、あらゆる人の生活を向上させる目標に掲げ、日本の企業へDXに向かうITを活用したソリューションの提案をしてきました。いくつかの導入事例をご紹介します。

【講演概要】

インテルはコンピューティング機器用の部品提供のみならず、日々200社を超えるエンドユーザー企業様と経営戦略、業務改善、効率化、新規事業開拓など、技術以外の話題でも対話しており、DXプロジェクトをご支援しております。数多くのプロジェクトを通じ、成功のヒントはDXやデータそのものではなく、これらの手段を高度に活用しながらどうビジネス成果に結びつけるのかというビジネスモデルが重要と改めて感じております。本講演では、インテル社内や東京電力様、ブイシंक様とのDXプロジェクト事例、その他の事例等をご紹介します。DX成功のカギを皆様と考察していきます。

概要

- インテル社内での事例 : 工場でのIndustry 4.0に向けた取り組み事例
- インテルがご支援した事例#1 : 電力会社様 エナジーゲートウェイの事例
- インテルがご支援した事例#2 : ブイシंक事例紹介 スマートベンディングマシンの事例

【企業プロフィール】

インテルは業界のリーダーとして、世界中の進歩を促すとともに生活を豊かにする、世界を変えるテクノロジーを創出しています。ムーアの法則に着想を得て、顧客企業が抱える大きな課題を解決する半導体製品を設計・製造し、その進化に向けて日々取り組んでいます。クラウド、ネットワーク、エッジ、あらゆるコンピューティング機器のインテリジェント化によりデータの価値を最大化し、ビジネスと社会をより良く変革します。



講師 インテル株式会社 インダストリー事業本部
ビジネス推進統括部 統括部長
梶原 晃紀, CISSP

【プロフィール】

外資系大手コンピューターベンダーにて、主に製造業を担当し、ネットワーク・インフラシステム、統合認証システム、科学技術計算システム、端末等に従事。その後、国内ベンダー企業にてシステム運用、セキュリティ・ソリューションに従事。セキュリティの知見を深め、コンサルタントとして脆弱性診断やコンサルティングに従事。2010年よりインテルへ入社し、ユーザーの新たなIT利活用やDX支援に従事。Certified Information Systems Security Professional (CISSP) 保有者。

ブロックチェーンのトレーサビリティへの応用 ～鮮魚・物流～

2008年にビットコインを支える中核技術として誕生したブロックチェーン。当初はビットコインやイーサリアムを始めとする仮想通貨や、トークン技術を使った「フィンテック」が大きな注目を集めてきました。しかし、近年、ブロックチェーンの本質である「安全性が高く、分散的で、コストが低い」データベースという特長から、金融領域よりもむしろ、非金融領域における産業応用により大きな期待が寄せられています。

商品の生産と物流に関わる業界、とりわけ食品を中心とした消費財のメーカーや流通業者にとって、ブロックチェーンはもはや「なくてはならない」技術だと言えるでしょう。本日は、ブロックチェーンを活用した、鮮魚のトレーサビリティに活用した事例をご紹介します。



【企業プロフィール】



【企業プロフィール】

アイエックス・ナレッジは、「情報サービスを通して、人と社会の豊かさに貢献する」ことを企業理念に掲げ、業務知識と技術、知恵を駆使し、様々なお客様の課題解決に取り組みながら、新しいシステムを提案し、お客様のIT基盤の構築・整備をお手伝いさせていただいております。

講師 アイエックスナレッジ株式会社 顧問 渡邊 彰

【プロフィール】

【プロフィール】

1984年、日本アイ・ビー・エム（株）にシステムズエンジニアとして入社。以降保険SE部長、日本国内社長補佐、メインフレーム事業部長（理事）、SI会社とのアライアンス事業開発などを歴任。その中でブロックチェーンを利用したトレーサビリティプロジェクト立ち上げを実施。2020年5月より、アイエックス・ナレッジ株式会社顧問。1995年にスタンフォード大学修士(Master of Science in Electrical Engineering)。